

経済観光委員会

日程 (令和4年)	6月15日～6月17日(3日間)	
調査都市	福岡市 広島県	
視 察 参 加 者	委員長 副委員長 委員	わたなべ 泰行 小田 昌博 高橋 克朋 佐々木 みつこ 山口 かずさ 中村 たけし 前川 隆史 村上 ひとし
	随行書記	照井 陽介 中村 啓彦 加茂 博仁
調査項目	1 マリンメッセ福岡について 2 福岡市障がい者スポーツセンターについて 3 イノベーション・ハブ・ひろしま Camps について	

福岡市

【マリンメッセ福岡について】

最初に、福岡コンベンションセンターを構成する4施設（福岡国際会議場、マリンメッセ福岡A館、マリンメッセ福岡B館、福岡国際センター）について、説明聴取した。

1 福岡国際会議場の概要

(1) 設置の目的

福岡市は第3次産業が集積した産業構造であることから、産業振興方策等としてのコンベンションシティの形成を重要施策の一つとしており、中央ふ頭地区のコンベンションゾーンの充実・強化を進めている。

コンベンションの形態は、展示会・見本市等の展示会系、大会・集会・会議等の会議系及び会議と展示会が同時に開催される併催型があり、その受け皿として展示場と専用的な会議場が同一地区に必要であることから本施設を設置した。

(2) 施設計画の基本的な考え方

ア 国際会議のほか、全国規模の大会・集会や学術会議、市民レベルの会議、集会等に幅広く対応できる使いやすい会議場とする。

イ 隣接する福岡サンパレスと連絡通路で結ぶことにより、福岡サンパレスのホールや会議室等と一体的に利用することができる。

(3) 施設概要

ア 敷地面積	10,251㎡
イ 建築面積	7,217㎡
ウ 延床面積	24,885㎡
エ 構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造地上5階
オ 会議室面積	4,977㎡



わたなべ泰行委員長（公明党）

(4) 機能



区 分	規 模	機 能
メインホール	1,300㎡	・ 6カ国語同時通訳 ・ 固定席1,000席
多目的ホール	1,320㎡	・ 6カ国語同時通訳 ・ 4分割利用可能
国際会議室	420㎡	・ 6カ国語同時通訳
中会議室	135㎡×8室	・ 2室一体利用可能
小会議室	45～75㎡×10室	・ 2～3室一体利用可能
会議室数（合計）	21室（分割利用時は24室）	

※ 多目的ホールとメインホールは一体利用により、最大3,000人の収容が可能になり、大規模な会議に対応できる。

(5) 運営手法

ア 一般財団法人福岡コンベンションセンターが国際会議場を建設し、福岡市へ無償貸与を行い「公の施設」として位置づけられている。

福岡市

イ 平成15年から福岡市より一般財団法人福岡コンベンションセンターが委託を受け管理・運営を行っていたが、平成18年度から福岡市コンベンション施設の指定管理者として、利用料金制度により施設の運営管理を行っている。

(6) 建設費用

約100億円

(7) 利用率・入場者数（2016年～2020年）

区 分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
利用件数	950件	818件	858件	796件	412件
入場者数	434,032人	423,256人	358,315人	356,094人	70,657人
利用延室数	5,503室	5,241室	5,522室	5,224室	2,161室
利用可能延室数	8,040室	8,040室	8,040室	8,064室	7,080室
利用率	68.4%	65.2%	68.7%	64.8%	30.5%

2 マリンメッセ福岡A館の概要

(1) 設置の目的

近年の国際化、情報化の進展の中で経済の一層の活性化を図るため、アジアを視野におき、21世紀を展望した、人、物、情報の多様な交流に対応できるものとして、福岡市が中央ふ頭地区に建設した。

(2) 施設計画の基本的な考え方

ア 親水的空間があり、福岡市の海の玄関口にふさわしい、国際交流拠点としてのシンボル性を持つ施設とする。

イ ウォーターフロントに建設されるため、海を意識し、ベイサイドプレイス、緑道、エキシビジョンパークとの連続性を持たせる施設とする。

ウ 国際見本市、展示会、スポーツ、コンサート等の開催が可能な施設とする。

エ 上記のコンセプトにより屋根のデザインは、大型の波形とし、日に映える波と海辺を飛びかうカモメをイメージしている。また、2階部分のデッキ（海のモール）をガラス張りにし、ベイサイドプレイス・博多湾を見渡すことができる。

(3) 施設概要

- ア 敷地面積 28,191㎡
- イ 建築面積 19,628㎡
- ウ 延床面積 40,631㎡
- エ 構造・規模 鉄骨鉄筋コンクリート造
・鉄骨造（屋根部分）
- 最高高さ 30.97m
- オ 階 数 地下2階、地上4階



(4) 機能

- ア 展示機能
 - ・展示面積 約9,100㎡、海のモール（2階 1,400㎡）においても展示可能
 - ・床荷重 5 t/㎡
 - ・天井吊り用フック 500 tまで可能
 - ・給排水設備、電気設備等が入った床ピットを設置

福岡市

- イ ホール機能
 - ・ポップス系、ロック系のコンサート開催可能
 - ・楽屋、バトン、迫り上げ舞台等を設置
 - ・最大収容人数 約15,000人
 - ・客席はスライド式可動席+昇降席+仮設席+固定席の併用
- ウ アリーナ機能
 - ・アリーナ面積
 - ・200mトラック（6コース）設置可能
 - ・100m直線トラック（室内陸上公認60m可）設置可能
 - ・収容人数

バレーボール1面	約12,000人
体操競技	約9,000人
テニス1面	約12,000人
柔剣場10面	約6,200人
- エ 大会議室
 - ・シアター 500席、スクール 250席
 - ・5カ国語同時通訳
- オ 中会議室
 - ・シアター 20～130席、スクール 12～56席
 - ・4室



小田昌博副委員長（自由民主党）

(5) 運営手法

- ア 福岡市が建設し、「公の施設」として位置づけられている。
- イ 平成7年から福岡市より一般財団法人福岡コンベンションセンターが委託を受け管理
 - ・運営を行っていたが、平成18年度から福岡市コンベンション施設の指定管理者として、利用料金制度により施設の運営管理を行っている。

(6) 建設費用

約297億円

(7) 利用率・入場者数（2016年～2020年）

区 分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
利用件数	96件	94件	95件	87件	20件
入場者数	1,363,450人	1,319,211人	1,369,977人	1,174,928人	72,979人
利用日数	294日	281日	303日	280日	44日
利用可能日数	335日	335日	335日	336日	298日
利用率	87.8%	83.9%	90.4%	83.3%	14.7%

3 マリンメッセ福岡B館の概要

(1) 設置の目的

福岡市では、ウォーターフロント地区において、「クルーズ」「MICE」「賑わい」が一体となったまちづくりを目指し、ウォーターフロントネクストとして再整備に取り組んでおり、既存の会議場や展示場などの稼働率が高く、利用申込をお断りしている状況が続い

福岡市

ているが、経済的な機会損失が生じるなど供給力不足が課題となっていることから、新たな展示場の整備などMICE機能の強化として設置された。

(2) 施設計画の基本的な考え方

ア 外観はマリンメッセ福岡A館と一体性を意識し、さざ波をイメージしたデザイン。

イ A館とB館をつなぐアーチ状の開放的なマリンメッセテラス（大屋根広場）が設置され、多目的型展示室は6千人を収容。

(3) 施設概要

ア 敷地面積	17,455㎡
イ 建築面積	10,051㎡
ウ 延床面積	11,430㎡
エ 階 数	地上2階
オ 構造	鉄骨造



(4) 運営手法

ア 福岡市がPFI方式で建設し、「公の施設」として位置づけられている。

イ 令和3年度から一般財団法人福岡コンベンションセンターが福岡市コンベンション施設の指定管理者として、利用料金制度により施設の運営管理を行っている。

(5) 機能

区 分	規 模	機 能
展示機能	1階 約5,000㎡	天井高 15m
ホール機能	最大収容 約6,000人	
会議室	シアター 400席 スクール 240席	2室 (350㎡) スライディングウォールによる分割可能
マリンメッセ テラス	敷地面積 3,000㎡ 大屋根面積 1,200㎡ (25m×48)	天井高 9.5~12m 床荷重 2t/㎡ 吊りバトン 12m×2

4 福岡国際センターの概要

(1) 設置の目的

福岡市及び周辺の産業・貿易の振興を図り、住民福祉の向上に寄与することを目的として、市制施行90周年、博多港開港80周年記念事業の一環として建設された。

(2) 施設計画の基本的な考え方

ア 諸外国との友好親善の促進、貿易の振興及び博多港の振興を図り、福岡市の国際文化交流都市としての確立をめざす施設とする。

イ 産業及び貿易製品の展示・国際会議・国際的なスポーツ大会やその他各種催物に利用する他、市民スポーツ大会等にも利用できる多目的ホールとして利用を行う。

(3) 施設概要

ア 敷地面積	17,094㎡
イ 建築面積	8,151㎡
ウ 延床面積	14,243㎡
エ 構造規模	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地下1階・地上3階

福岡市

(4) 機能

区 分	規 模	機 能
展示機能	1階 3,425㎡ 2階 1,627㎡ 展示面積 5,052㎡	最大収容人数 約10,000人
会議室	48㎡	
研修室	207㎡	2室

(5) 運営手法

一般財団法人福岡コンベンションセンターが建物を建設・所有しており、利用料収入等の自主運営を行っている。



(6) 建設費

当初 約38億円

増築 約1億1,700万円（平成5年度）

改修 約25億5,000万円（平成15～16年度）

(7) 利用率・入場者数（2016年～2020年）

区 分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
利用件数	100件	95件	107件	91件	28件
入場者数	458,768人	546,919人	525,776人	478,867人	48,417人
利用日数	310日	303日	314日	271日	60日
利用可能日数	335日	335日	335日	336日	295日
利用率	92.5%	90.4%	93.7%	80.7%	20.3%

<委員からの主な質問と回答>

Q：指定管理者を非公募で選定することに、反対の声はなかったのか。

A：なかった。

5 施設調査

説明聴取の後、マリンメッセ福岡A館及びマリンメッセ福岡B館の施設内の視察を行った。



佐々木みつこ委員（自由民主党）



※写真撮影時のみマスクを外しました。

福岡市

【福岡市障がい者スポーツセンターについて】

1 設置目的

障がい者の方々がスポーツ・レクリエーション活動を楽しみながら健康の維持・増進を図り、多くの人々との交流を図る場として活用するために設置された。

2 設置概要

- (1) 種別 身体障害者福祉センターA型
- (2) 敷地面積 6,343.54 m²
- (3) 延床面積 4,666.30 m²
- (4) 構造 鉄筋コンクリート造地上2階地下1階
- (5) 駐車場 47台収容（うち車椅子用8台）
- (6) 総事業費 19億6千万円
- (7) 開設 昭和59年4月1日

（全国で大阪（昭和49年）、名古屋（昭和56年）、広島（昭和58年）に次ぎ4番目に設置された）

3 愛称：さん・さんプラザ

- 太陽のように明るく元気な活動の場を提供する「さん（SUN）」
- スポーツを「する」「みる」「かたる」という3つの機能を有する施設の「さん」
この2つを合わせたもの。

4 事業

(1) 年間教室

年間を通じて定期的な身体活動・スポーツ活動を実施することで、自発的な健康維持・増進や活動のきっかけとなることを目的に開催。

ア 親子水あそび教室

親子で楽しく水に慣れ、教室以外でも安全なプールの活動につなげる。

イ リフレッシュ教室

ラジオ体操・ストレッチ・筋トレ・軽スポーツ等を行う。

ウ 基礎卓球教室

基礎から試合展開等の各自レベルに応じた技術指導を行う。

(2) ワンポイント広場

年間を通して気軽に取り組める種目を自由参加で行うことにより、体験的に参加でき、余暇活動の充実やスポーツ活動へのきっかけ作りの場とするもの。

(3) その他

ア 相談事業

- ・スポーツ医事相談
- ・個別指導



山口かずさ委員（山口 かずさ）



中村たけし委員（民主市民連合）

福岡市

イ 地域支援事業

- ・指導者派遣
- ・競技別講座（障がい者スポーツ指導者
- ・支援者講習会）

ウ サークルの育成 等

5 サークル

- (1) 文化関係のサークル 10 団体
- (2) スポーツ関係のサークル 61 団体（23 種目）
- (3) 施設（事業所 22 団体）

6 施設内容



前川隆史委員（公明党）



●温水プール
25m 6 コース。水深1.2～1.4m。
入水スロープ付き。日本水泳連盟公認プール



●体育館
テニス1面、バスケットボール1面、バレーボール2面、バドミントン4面



●小体育館



●アーチェリー場（屋外屋根付）
距離 30m



●トレーニング室
各種トレーニング機器



●卓球室
一般用4台・視覚障がい者用1台

福岡市



●和室
15畳（茶炉あり）



●講習室
約50名収容可能

7 使用料金

(1) 無料

障がい者（福岡県内在住）の方、障がい者の介助者の方、ボランティアの方

(2) 有料

上記以外の方

8 利用状況

(1) 障がい別延人数

区分	令和元年度（4～2月）	令和2年度（6～3月）	令和3年度（4～8月）
身体	31,955人	13,852人	4,643人
知的	25,768人	12,845人	3,934人
精神	4,643人	3,934人	1,702人

(2) 年齢別延人数

区分	令和元年度（4～2月）	令和2年度（6～3月）	令和3年度（4～8月）
60歳以上	30,427人	14,217人	4,749人
50～59歳	13,079人	6,714人	2,272人
40～49歳	17,185人	8,220人	2,671人
30～39歳	13,657人	6,250人	2,019人
20～29歳	14,714人	7,600人	2,331人
中学生～19歳	7,883人	3,804人	1,249人
小学生以下	6,154人	3,389人	1,191人

＜委員からの主な質問と回答＞

Q：どのような事業所が団体利用しているのか。また、事業所等の団体が恒常的に利用すると、空きが少なくなり、他の方が利用しにくくなることも考えられるが、利用を制限することもあるのか。

A：知的障がい、デイサービス等様々な種類の事業所が利用している。
アリーナを2面に区切って利用するなど、多くの人が利用できるよう工夫している。

Q：障がい者スポーツの指導員の育成はどう行っているのか。

A：研修や講習会等に参加している。また、職員同士での話し合いや情報共有を行い、切磋琢磨している。

9 施設調査について

説明聴取の後、施設内の視察を行った。

広島県

【イノベーション・ハブ・ひろしまCampsについて】

1 広島県におけるイノベーション創出に向けた取り組み

○ 広島県におけるイノベーション施策の始まり

平成21年11月に湯崎英彦氏が広島県知事に就任し、これまでの重厚長大型の産業構造だけでなく、新しい成長産業に取り組み始めた。

○ ㈱ひろしまイノベーション推進機構設立

地域特化型としては国内最大級の投資ファンド。中四国地方の企業の成長支援と地域経済活性化を目的に広島県が設立し、PEファンド経験者による本格的かつ独立した運営のもとで、投資先の企業価値向上とファンドリターン実現に取り組んでいる。

○ ひろしま創業サポートセンター設立

創業・起業する方や開業して1年以内の方、また第二創業（事業転換や新事業・新分野への進出など）を目指す方が無料で利用できる相談窓口。創業前から創業後にわたる継続的なサポートを提供する。

○ ひろしまスターターズ運用開始

イノベーションに向けたソフト事業。

- ・イノベーション・トーク
- ・デザイン思考ワークショップ
- ・ハッカソン

○ イノベーション・ハブ・ひろしまCamps誕生

新たなビジネスや地域づくりなどにチャレンジする多様な人が集まるイノベーション創出拠点。

“Camps”とは、「集中して合宿型の訓練を行う場」や「非日常的な空間で新たなアイデアを創出する場」などをイメージしている。

この拠点を核として、人や資金・情報などが集積・結合して、新たなつながりとイノベーションが次々と生み出される好環境（イノベーション・エコシステム）が形成されることを目指している。

○ ひろしまサンドボックス

広島県内外の企業や人材を呼び込み、AI/IoT等の最新テクノロジーを活用した実証プロジェクト。

○ ユニコーン10プロジェクト

10年間でユニコーンのような企業を10社創出することを目標として掲げ、広島から世界に大きく羽ばたき成長することを目指す企業を応援するプロジェクト。

2 施設調査について

説明聴取の後、施設内の視察を行った。



高橋克朋委員（自由民主党）



村上ひとし委員（日本共産党）